安全衛生だより第7号
平成27年8月10日発行
環境安全部

1．9月全国行事

行事	期間
1）防災の日	9月1日
2）秋の交通安全運動	9月21日～9月30日
3）全国労働衛生週間準備月間	9月1日～9月30日
4）全国作業環境測定・評価推進運動	9月1日～9月30日
5）環境衛生週間	9月24日～10月1日
6）健康増進普及月間	9月1日～9月30日
7）心とからだの健康推進運動	9月1日～9月30日

2．安全・衛生・防災の心得 ： 職場の化学薬品の安全心得

3．安全衛生巡視　良い事例（抜粋）

4．他社の事故・災害事例から ： 高温に不慣れな作業員が熱中症

5．今月のヒヤリハット

2．安全・衛生・防災の心得 ： 職場の化学薬品の安全心得

現在、化学薬品とか化学物質と呼ばれているものは10万種にも及ぶと言われ、化学工場や研究機関などの特定な業種に限らず、多くの職場でいろんな用途で使用されており、家庭の中でも100種類以上は使われていると言います。これらの化学薬品や化学物質は、有用で便利な反面、有害性、危険性の側面をもっています。使い慣れているものでも、油断は禁物です。職場の薬品類の保管と取り扱いについて次のことに気をつけましょう。

●保管で気をつけること。

内容物がわかるように表示し、種類別に色分けし、指定された場所に保管する。別の容器に入れるときは、前のラベルははがして明確に表示する。毒劇物は安全な場所に保管し、責任者の許可を受けて取り出す。保管場所の温度、通風などの保管条件を守る。

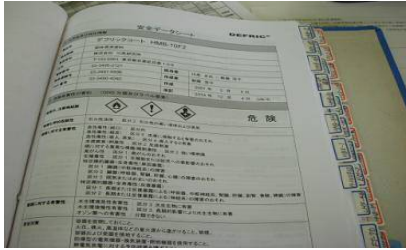
●取扱いで気をつけること。

取り扱う前に有害性や危険性等をチェックし、指定された方法で取扱う。分からない時は上司などに聞く。取扱場所の整理・整頓・清潔・清掃に心掛け決められた作業衣、保護具類は必ず使用する。緊急時の措置や応急処置を知っておく。定期的に洗眼などの救急設備を点検し、直ちに使用できる状態にしておく。

化学薬品等を取扱うときは、常に有害性や危険性を念頭において、取扱説明書をよく理解し、正しい安全な方法で取扱いましょう。

3. 安全衛生巡視　良い事例(抜粋)

①勝田工場

塗料、薬剤全てのSDSを整理して
ﾌｧｲﾙしてあり、良い取り組みと感じた。

②総合技術研究所

神奈川県防災センターで災害時の問題点
や対処方法を51名が体験していた。

4. 他社の事故・災害事例から　:　高温に不慣れな作業員が熱中症

＜災害のあらまし＞

建物の改修工事作業で、作業員A(男性・50歳、経験なし)は、モルタルを2つのバケツに約10kg
づつ入れて一階から三階まで運搬する作業を行っていたところ、午後3時の小休止の際、Aが
非常につかれた様子なので監督者はAに休んでいるように指示し、休憩場所に戻るとAが気を
失って倒れていたため、救急車を呼んで病院に収容しましたが、熱中症による急性肝不全で後日
死亡しました。

＜災害の主な原因＞

①気温31℃、湿度60%の環境の中で、作業強度の高い作業を続けていたこと。
②Aは就業2日目で、高温高湿の中での作業に慣れていなかったこと。
③監督者は熱中症の兆候の知識や応急処置の方法を知らなかったこと。Aも熱中症の危険性
や症状について教育を受けていなかったこと。

＜同種災害の防止対策　例＞

①それほど高温でなくても、作業強度が高い作業では、熱中症を起こすことがあるので休憩や
水分の補給を十分に行う。
②高温作業に慣れない者に対しては徐々に環境に慣れさせ、作業状態を監視し指導する。
③熱中症の予防・対策、応急処置等についての教育を徹底する。
④厚生労働省通達の「職場における熱中症の予防対策」指針等を参照して管理を行う、など。

5. 今月のヒヤリハット:各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

「危険の芽　病気の芽　早期に摘んで　安全作業」

事例	台車で製品を移動中、バランスを崩した。
どこで	工場内で。
あらまし	台車で製品を移動中、段差に前輪が当り、突然台車の持ち手が前に倒れて自分自身がバランスを崩した。
原因	台車を段差にぶつけて、乗り越えようとしたこと。
教訓・対策	台車は平面を移動するようにし、段差や側溝には注意すること。

6. その他

クールビズ期間中の節電について

今年も蒸し暑い季節が続いています。電力消費量が増加する夏季ですが、空調機器の抑制的な
稼動など節電対策に協力願います。

「無限じゃないぞこの資源　一人一人がエコ活動」 H27年環境保全最優秀作品